



炬火を掲げていざ謳う

No.61

2023年10月23日（月）

編集 泉鳥取高等学校閉校記念事業実行委員会

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>



我々の泉鳥取

生徒自治会ルネサンス

— 和泉鳥取駅が見違える —



和泉鳥取駅クリーンアップキャンペーン（39～41期）

1990年代後半から低調になっていた生徒自治会活動ですが、2013年を境に再び活発となります。とりわけ36期の自治会は、自分たちで企画立案し、行動できる執行部でした。当時、阪南市では様々な壁面を使って、壁画アートを学校単位で描くという取り組みをしていました。和泉鳥取駅のガード下も同様で、阪南市の取組みに協賛する形で、JR西日本の承諾を受けて泉鳥取高校生徒自治会を中心として作成されました。当時の生徒自治会について顧問の中山泰教諭が創立40周年記念誌にこのことを書かれています。

かつては、めぼしい人材を、教員側が必死でリサーチして、生徒会活動をしてくれそうな生徒を一本釣りの形で補充してきた日々がありましたが、ここ数年、多くの生徒が自主的に生徒自治会執行部に入って来てくれるようになりました。従順で大人しいタイプの生徒達に、教員がお膳立てした校内行事の企画を「お手伝い」させているというのが、10年ほど前の状況だったと記憶していますが、36期生の生徒が、執行部に入って来た時の事です。「私達は、自分達の考えで学校行事をつくらたいです。」という言葉が出てきました。が、少し変わってきたなという感触を得た瞬間です。

その後、多くの行事の企画を、生徒達自身で考えるようになり、文化祭、体育祭、また平成25年度から始められたクラブ見学会など、学校行事の幅が増えていったよ

うに思います。（中略）また、学校外のイベントにも、生徒達は積極的にかかわっていくようになりました。阪南市、岬町で毎年行われるキャンドル物語やJR 和泉鳥取駅でのマナーアップキャンペーンへの参加など、これからも長くかかわっていくであろう行事にも、執行部員は積極的な意思を持って、取組んでいます。ついでながら、本校生徒自治会執行部による和泉鳥取駅構内の壁画制作が行われたのは、平成25年の夏の事です。

平成25年頃は、選択授業の「ボランティア」の効果もあって、校内活動が徐々に活発となるとともに、市内の小中学校や幼稚園との連携も深まった時期です。とりわけ生徒会メンバーの活動は、その後現在にまで続いています。36期生は、これまで部活動や生徒自治会活動が結実したと言えるでしょう。

下の絵は、和泉鳥取駅に描かれた壁画の原画、38期の漫画家志望生の作品です。

